北区の部屋だより

2018年5月

第106号

刊行物登録番号 29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 5 月発行

北区こぼれ話 第106回

酒税が国を支えた時代からの遺産 ～醸造試験所～

北区滝野川２丁目６番地にある醸造試験所跡地公園。その名が示すとおり、ここにはかつて醸造に関する唯一の研究機関である醸造試験所（後の酒類総合研究所）がありました。

明治 37（1904）年３月、着工から２年の歳月を経て醸造試験所が開設されました。設立趣旨については、「学理を応用して改良進歩を企図する」とされ、製品の品質改善さらには生産費節減の方法などが研究されました（『醸造試験所七十年史』）。明治 38 年には醸造業者の子弟を対象に経営者養成講習会が開かれ、以後、毎年講習会が行われるようになり、明治 44 年からは全国新酒鑑評会も開催されています。

国の重要文化財に指定された旧醸造試験所第一工場

このように日本醸造業の発展に寄与し続けた醸造試験所ですが、一方で、その設立時期から考えると、試験所のまた違った一面を窺うことができます。

日清戦争後の軍備拡張や官営企業への財政支出が増大し、日本では間接税を中心とした増税が行われました。明治 29 年 10 月に酒造税法が制定されると、明治 34 年までの５年間で３回の増税が図られ、明治 32 年にはそれまで国税収入のトップであった地租を抜いて酒造税が国税収入の第１位となります。その後、再び地租に抜かれますが、明治 42 年からは第１位を取り戻すなど、戦前期において、酒造税は国を支える重要な財源だったのです。そして、醸造試験所は、まさにこの時期に設立されているのです。

酒造業の安定が、そのまま国税収入の安定につながることは言うまでもありません。試験所の設立についても「酒造ノ税源涵養」、すなわち、確実な税源の確保・育成に繋がるとの認識が示されています。滝野川の地に設立された醸造試験所は、醸造業進歩・発展のための研究機関であると同時に、国家財政上、安定的税収を確保するための重要施設だったことが知られるのです。

開設前年に建てられた赤煉瓦の第一工場は、平成 26 年に国の重要文化財に指定されています。すでに何度も訪れている方もいらっしゃると思いますが、様々な経緯を知った上で改めて見てみると、また違った風景に見えてくるかも知れませんよ。

【地域資料専門員　保垣孝幸】

★★★今月の展示★★★

◆テーマ ： 赤羽馬鹿祭り
◆期　間 ： 4 月 27 日(金)～5 月 23 日(水)
◆場　所 ： 中央図書館「北区の部屋」

『経済白書』が「もはや戦後ではない」と力強く宣言した 1955 年。何か赤羽でも目玉になるイベントをと商店街が企画し始まった「馬鹿祭り」も、60 年以上が経過し、今や北区最大規模のお祭りとなっています。

今回の展示では、そんな「赤羽馬鹿祭り」の歩みを紹介します。

第 43 回 赤羽馬鹿祭り より

★★★北区の歴史、一緒に学んでみませんか!?★★★

北区図書館活動区民の会・地域資料部では、図書館と協働でさまざまな取り組みを行っています。その内の１つ、北区の地域資料を考える上で「まずは北区の歴史を学ぼう！」と開催されているのが**「北区の歴史を学ぶ会」**です。

毎月１回、参加者自身が北区を題材に調べ上げた研究成果を発表したり、街歩きで区内の史蹟巡りや定点観測等をしたりと、さまざまな活動を行っています。「北区の部屋」地域資料専門員も参加しています。

他の参加者の発表を聞いているだけでも構いません。北区の歴史に興味のある方なら大歓迎です。まずは一度、様子を見に来てみませんか？　お待ちしています！！

開催日：毎月第４火曜日　午後２時～４時
場　所：中央図書館３階　区民活動コーナー
◆お問い合わせは中央図書館内、
区民の会事務局（☎03-5993-1125）まで

★★★おかげさまで好評発売中♪★★★

４月に刊行しました北区の地域史の決定版「TOKYO 北区の KITA みち～目で見る北区の歴史～」(A4 判・本文 112 頁・フルカラー・500 円)は、中央図書館では今回初の試みで、区内の一部書店でも販売を開始いたしました。来館の難しい購入希望の皆さま、お近くの書店をぜひご利用ください。

＜「TOKYO 北区の KITA みち～目で見る北区の歴史～」販売書店一覧（５月１日現在）＞

1	**◆昇堅堂** 北区豊島4-3-4（☎03-3911-5822）	5	**◆ブックスページワン・ｲﾄｰﾖｰｶﾄﾞｰ赤羽店** 北区赤羽西1-7-1-6F（☎03-5993-7330）
2	**◆ビーブックス** 北区豊島5-4-1-111（☎03-3914-1157）	6	**◆文書堂** 北区赤羽北2-11-18（☎03-3900-5950）
3	**◆井上書店** 北区中十条3-35-1（☎03-3900-8841）	7	**◆フタバ書店** 北区西ヶ原1-55-12（☎03-6681-0288）
4	**◆東武ブックス・ビーンズ赤羽店** 北区赤羽1-1-1（☎03-5939-6621）	8	**◆ブックスページワン・北赤羽店** 北区浮間3-2-8（☎03-5970-3355）

北区の部屋だより

2018年6月

第107号

刊行物登録番号 29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 6 月発行

北区こぼれ話 第107回

赤レンガ図書館の外壁に付いている金具は？

図書館内部側の金具

北区立中央図書館の赤レンガ部分には、いくつもの錆びた金具がついています。２枚の写真で示したように、かなり高い位置にあります。開館当初、「あの金具は、いったい何ですか」と聞かれて「何でしょうね。よく分かりません」と答えていました。

北区の部屋には、陸軍造兵廠（しょう）（現在の中央図書館や中央公園、十条駐屯地などの場所にあった兵器工場）に学徒動員された方や、その技能者養成所で学んだ方、造兵廠内の病院の看護師さんだった方など、造兵廠と様々な関わりを持った方がご来室されます。中央図書館は、造兵廠のレンガの建物を保存・活用したものだからです。そうした皆さまの中には、当時の貴重な写真や手帳、工具類などをご寄贈下さる方もいらっしゃいます。戦中の日記やノートを複写させて戴くこともあります。そのような方々との会話の中で、あの金具のことが段々わかってきました。

複数の方のお話を総合すると、つぎのようになります。

造兵廠の工場の中には、たくさんの工作機械がありました。それを動かすのは、モーターです。モーターの回転は、ベルトとプーリー（車輪）により天井付近のシャフト（回転する金属の軸）に伝えられます。シャフトは長く、そこから多くのベルトとプーリーに回転が伝えられます。これらにより、一度にたくさんの工作機械を動かしたということです。このような機構は、造兵廠特有のものではなく、民間の工場にもよくあったものです。

造兵廠の場合、レンガの壁の内側、天井近くに規則的にシャフトの軸受が並んでいて、シャフトは、壁と平行に配置されていました。これを「天井シャフト」と呼ぶことがあったそうです。つまり、シャフトの軸受を外側から固定する金具が、あの錆びた金具の正体だったのです。

それらの金具は、レンガ壁を貫くクサビ状の部品で固定されているように見えます。十条駐屯地側の壁の金具は３本の部品で固定され、図書館内部側の方は４本の部品で固定されているようです。なお、固定金具の形状の違いが、どのような理由によるものなのかは定かでありません。

【地域資料専門員　黒川徳男】

十条駐屯地側の金具

北区の部屋 今月の展示

テーマ：明治 150 年
北区でふりかえる明治維新と文明開化
期　間：5 月 25 日（金）～6 月 27 日（水）
場　所：「北区の部屋」企画展示コーナー

平成 30 年（2018）は、明治 150 年にあたります。新政府軍の飛鳥山駐屯、王子神社の准勅祭社指定、神社寺院の神仏分離、王子製紙の創業、近藤勇の墓の建立、渋沢邸での徳川慶喜と伊藤博文の会見など、北区には、振り返るべき明治日本の歩みがたくさんあります。今月は、区内にある明治史ゆかりの場所や石碑などについて展示します。

「元准勅祭」と刻まれた王子神社の社号標石
明治元年、王子神社に明治天皇の勅使が参向し、祭祀をおこなったことを今に伝えています。

祝☆
北区立図書館80周年
&赤レンガ図書館10周年
&「北区のKITAみち」刊行
記念企画！

講演会「北区のKITAみち」徹底ガイド★徹底レポート♪

今回の講演会は、4 月に刊行された『TOKYO 北区の KITA みち～目で見る北区の歴史～』（以下、「KITA みち」）をテキストに、「北区の部屋」の黒川徳男・保垣孝幸地域資料専門員を講師として、5 月 12 日（土）と 19 日（土）に開催されました。

日本近世史研究家
保垣孝幸講師

第１回の保垣講師による講演は、古代～近世にかけて、北区の地形や人口の推移、江戸における北区の役割や暮らす人々の生活、文化などに焦点を当てたものでした。

その１つに、桜の名所・飛鳥山の話がありました。ここは８代将軍が園地政策で桜を植え、一般人に開放された行楽地です。当時、江戸城の周辺には行楽する場所が少なく、江戸の中心地から徒歩でも日帰りできる距離にある飛鳥山は多くの人が行楽に訪れ、江戸名所の１つとなりました。また、滝野川村などの街道沿いは、行楽客を相手に村民が商う水茶屋が立ち並び大変賑わいました。これにより、村民は農業以外にも収入を得られるようになったそうです。

一方、北区域周辺は江戸近郊農村として、江戸に暮らす人々の食を支えました。江戸向けの野菜の生産が盛んになり、その過程で滝野川人参などのブランド野菜も生まれたそうです。江戸近郊農村が江戸文化を支えていたと、講師は解説していました。

第２回の黒川講師による講演は、明治以降～現代の、特に北区の特色でもある軍事施設や産業、鉄道について焦点を当てました。

北区は戦前軍用地が多く、区内面積の約１割を占めていました。特に赤羽地域に多く、２つあった工兵隊は道路を作ったり橋を架けたりする部隊で、橋を架ける以外にも、街の火事に出動するなど地域に貢献し、住民からも役立つ存在として受け入れられていたようです。この他、被服廠では多くの女性従業員が軍服や軍靴、背嚢などを製造していました。施設内には託児所があり、乳幼児の保育も行われていました。また、ここで洋裁の技術を学び、後に民間で職を得た女性も多かったそうです。

近代産業の発展は実業家・渋沢栄一の王子製紙から始まりました。当時の風景画には工場の煙突から出る黒い煙が描かれています。現在の感覚だと黒い煙は公害などを連想しますが、当時は産業発展の象徴でした。時代が変わると、ものの考え方が全く変わってしまう興味深い一例でした。

これらの話の中に鉄道の話は頻繁に登場しました。人と物を大量に運搬できる鉄道は物流の主流となり、鉄道の開通したところに人が集まり、街が発展していったことが容易に想像できました。

今回の講演は「KITA みち」をもっと楽しく読んでもらいたい！…と企画されました。本の内容を掘り下げるのはもちろんのこと、刊行の経緯や全体の構成、表紙画「王子電車沿線図絵」の絵師・金子常光氏についてなど、ここでしか聞けない話も多く、大変充実した講演だったと思います。アンケートでも「執筆者から直に話が聞けて良かった」、「もっと聞きたい、2 回と言わず 10 回連続講座にしてほしかった」等の嬉しい感想を多くいただくことができました。

日本近現代史研究家
黒川徳男講師

北区の部屋だより 2018年7月

第１０８号

刊行物登録番号 29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 7 月発行

北区こぼれ話 第108回

岩淵宿にあった渡船場（とせんば）は誰のもの?!

北本通りの新荒川大橋交差点付近

国道 122 号線を埼玉県川口市方面から東京へ向うと、新荒川大橋を渡りきった少し先で「東京都北区」の標識が現れます（写真）。「えっ?!荒川を渡っても埼玉なの」と不思議に思う方もいらっしゃるかと思いますが、実際の区境はもう少し川寄りで、北区と川口市との境界は放水路開削以前の荒川の流路（りゅうろ）に起因します。

さて、この両者の境界については古くからたびたび問題となり、江戸時代にも幾度となく争論となっていました。それというのも、江戸時代の岩淵宿（いわぶちしゅく）は、川寄りの 50間（けん）（約 91m）の場所が川口宿（かわぐちしゅく）の敷地だったからです。

何故、そのようなかたちになったのかというと荒川の流路変更が原因でした。そもそも、岩淵宿と川口宿との境界は荒川の流路で決められており、中央に建てられた傍示杭（ぼうじくい）を境に北を川口宿、南を岩淵宿と定めていました。ところが、享保（きょうほ）年間（1716～36）に行われた河川改修にともなって、川筋は北側へと移ってしまい、結果、川口宿の飛地が岩淵宿側にできるかたちとなったのです（『新編武蔵風土記稿（しんぺんむさしふどきこう）』）。

この川口宿の飛地をめぐる争論は、岩淵宿側にある渡船場の帰属問題に発展しました。川口宿が、対岸にある岩淵宿の渡船場も川口宿のものだと主張したからです。安永４年（1775）、代官伊奈半左衛門が手代を通じて確認した際には、荒川対岸に川口宿の地所が存在することを認めつつ、街道の人馬継立（じんばつぎたて）や渡船場については現在の荒川中央を境とし、南側は岩淵宿で引き受けることとしました。しかし、文化元年（1804）には再び争論が起こり、このときの岩淵宿は、荒川を越えた対岸に川口宿の地所は一切存在しないと主張しています（「岩淵宿町文書」）。この問題は、地所は川口宿地内、「進退」は岩淵宿というかたちで落着しますが、地所は川口宿でも実際の管理・運営は岩淵宿で行うという、この現実的な対応が問題を曖昧にし続け、結果、明治時代に入ってもたびたび渡船場をめぐる争論が繰り返されることになります。

こうした問題は、河川という、ともすれば位置が変わってしまうもので境界を定めたため、後々まで尾を引くかたちになりました。現在、北区と川口市との境界は多くの場所で荒川の中央となっていますが、今後大幅な流路変更がなされた場合、両者のあいだで、また新たな問題が起こるのかも知れません。

【地域資料専門員　保垣孝幸】

北区の部屋 今月の展示

テーマ：北区遊歴～『遊歴雑記』に見る江戸時代の北区
期間：6月29日（金）～7月25日（水）
場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

江戸小日向水道端（現、文京区水道２丁目）本法寺中廓然寺の住職は、
隠居後十方庵と号し江戸近郊を中心に様々な名所・旧跡を訪ね歩きました。
今回の展示では、彼が記した『遊歴雑記』を題材に、区内の様々な名所・旧跡・行事などを紹介します。

歴史講演会のご案内

企画・運営　北区図書館活動区民の会

「忘れ去られた産業遺産～カラミ煉瓦の謎に迫る」

北区立図書館８０周年
北区図書館活動区民の会
１０周年記念

従来多くの謎に包まれていた「カラミ煉瓦」。豊島５丁目団地付近にあった関東酸曹（後の日産化学）王子工場を起点に、その製造、販売、組成、経緯、使用場所など最近の研究をお話しします。

講　師：北区史を考える会　領塚　正浩氏
日　時：８月５日（日）午後２時から４時
場　所：中央図書館　３階ホール
定　員：５０名（抽選）
申込先：〒114-0033
北区十条台 1-2-5　中央図書館　図書係
TEL:5993-1125／FAX:5993-1044
締　切：７月１８日（水）（必着）

申　込：往復はがきの往信面に講演名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、返信用表面には申し込む方の住所、氏名をご記入ください。
※視覚障害のある方は電話申込可
※聴覚障害のある方はファックス申込可
※手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください

平和図書コーナーを開設します！

北区では昭和６１年に制定した平和都市宣言を記念し、７月３１日（火）から８月４日（土）までを『平和祈念週間』として、北とぴあで平和を願うさまざまな催しを実施します。図書館でも『平和図書コーナー』を設け、この取り組みに全館を挙げて参加します。来館者の方々が平和について考えるきっかけにしていただきたいと思います。

開催期間
・７月 27 日（金）～８月 31 日（金）
※休館日を除く

開催場所
・平和図書コーナー（一般書）
中央・滝野川・赤羽図書館にて
※中央図書館では、『北区の部屋』の地域資料専門員が選定した資料を、１階入口正面柱周りの展示コーナーで展示します。

・子ども向け平和図書コーナー（児童書）
全図書館にて

「古文書入門講座」終了しました。

５月 11 日（金）から始まった、古文書入門講座「初めてのくずし字」が終了しました。「北区の部屋」の保垣孝幸地域資料専門員を講師に、江戸時代に北区で作成された古文書を読んでみようというものでした。第１回は古文書を読み解くための基礎知識や字典の使い方を学びました。２回目からは古文書の解読に入るのですが、実際に北区で作成された古文書を教材にしているので、当時の北区に住む農民たちと領主の関わりも学ぶことができました。テレビや本で見聞きするのとは一味違い、歴史をより身近に感じながら学ぶことができました。受講者は、毎回しっかりと予習復習をされており、意欲の高さがうかがえました。最終回は今後学習を続けていく場合、どうしたら実物の古文書に触れることができるのか、またその時の注意点などを学びました。

保垣孝幸講師

北区の部屋だより 第109号

2018年8月

刊行物登録番号 29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 8 月発行

北区こぼれ話 第109回 GHQに開封された手紙 ―占領下の郵便検閲―

写真 1　民間検閲局(CCD)によって開封された区民あての手紙

北区の部屋では、区民の皆様から、古文書や古地図、写真、手紙、回覧板など様々な資料を収集しております。極めてまれなことですが、その中に「CCD」という文字の入ったスタンプが押された郵便物を見つけることがあります。CCD とは、民間検閲局（Civil Censorship Detachment）の略称です。第二次世界大戦後に日本を統治下に置いた連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の一部局で、参謀第二部（G2）の下におかれていました。G2 とは、いわゆる情報機関です。つまり、これらのスタンプは、GHQ の情報機関による郵便検閲の痕跡です。GHQ は、このような行為により日本国民の思想的動向を探り、内容が犯罪に関わるものだった場合、関係者を逮捕することさえあったと言います。

CCD の研究としては、江藤淳氏の『閉された言語空間　占領軍の検閲と戦後日本』（文藝春秋）をはじめとして、山本武利氏の『GHQ の検閲・諜報・宣伝工作』（岩波書店）などがあります。また、平成 25 年（2013）11 月 5 日には、NHK の報道番組「クローズアップ現代」において、CCD の郵便検閲に従事していた日本人についての特集が組まれました。

では、北区の部屋にご提供いただいた資料のうち、CCD のスタンプがある二つの郵便物について紹介します。**写真 1** は、ある区民の方から複写させていただいた封筒の一部分です。手紙の内容は、年始の挨拶などでした。スタンプは CCD の文字の他に、番号やチューリップの花に似た図形で構成されています。一度開封されたとみられる部分は「OPENED BY」と印刷された透明のテープで閉じられていました。つまり「CCD によって開封されました」と示してあるのです。**写真 2** は、ソビエト連邦領内の捕虜収容所から北区内の家族へ送られてきた葉書の一部分です。本文は、自らの消息を伝えるだけの短いものでした。写真の上の方のロシア語のスタンプはソ連側のもので、下が CCD のものです。GHQ としては、ソ連領内についての情報や思想的な記述がないか、確認したかったのでしょう。

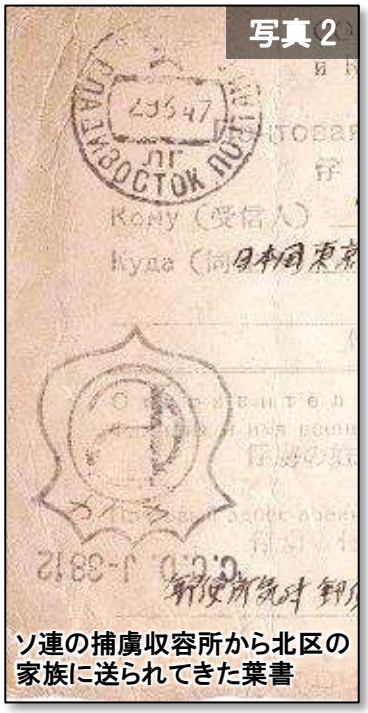


写真 2　ソ連の捕虜収容所から北区の家族に送られてきた葉書

ところで、日本国憲法は、第 21 条で通信の秘密を保障しています。現在の憲法が施行された後には、この郵便検閲は無くなったのでしょうか。いいえ、占領が終わるまで続きました。占領下では、憲法よりもポツダム宣言の方が、法的に優越していたからです。憲法違反に該当する郵便検閲も、GHQ がポツダム宣言を実現するためにおこなうのであれば、違法ではないとされていたのです。　【地域資料専門員　黒川徳男】

北区の部屋 今月の展示

「日常の中の戦争」と「戦争の中の日常」

◆期間：平成30年7月27日(金)～8月22日(水)
◆場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

昭和 20 年(1945)8 月 15 日(水)終戦の詔勅がラジオから流れ、今年で 73 回目の夏がめぐってきました。戦争体験の風化が報じられる一方、戦中の日常生活を描いたテレビドラマが話題になっています。

今月の「北区の部屋」の展示は、戦争と日常をテーマに選びました。金属供出から戻ってきた寺院の鐘。戦災樹木である王子神社の大イチョウ。荒川の鉄橋に残る空襲の跡。現在の日常の中にある様々なものから、戦争の中の日常について想像してみましょう。

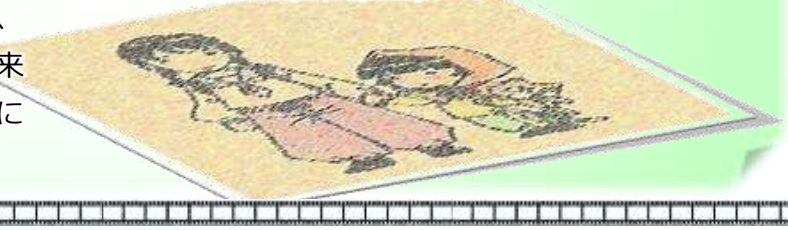
平和図書コーナー開催中！

北区では昭和 61 年に制定した平和都市宣言を記念し、7 月 31 日（火）から 8 月 4 日（土）までを『平和祈念週間』として北とぴあで平和を願うさまざまな催しを実施します。

図書館でも『平和図書コーナー』を設け、この取り組みに全館を挙げて参加します。来館者の方々が平和について考えるきっかけにしていただきたいと思います。

◆開催期間
・7 月 27 日（金）～8 月 31 日（金）※休館日除く

◆開催場所
・平和図書コーナー（一般書）
→　中央・滝野川・赤羽図書館にて
・子ども向け平和図書コーナー（児童書）
→　北区立図書館全館にて



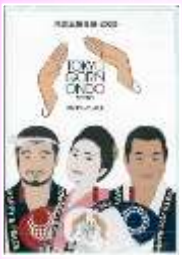
地域資料☆新刊図書＆DVDのご案内♪

◆TOKYO 北区時間 2018
ーこのまちの一歩奥へー

地域情報誌「TOKYO 北区時間 2011」に続く第 2 弾。

北区の魅力を広く発信しようと、区内のエリアガイドにとどまらず、歴史、自然、グルメ、エンターテインメントなどのテーマにおいて、“人”にフォーカスした区の魅力を紹介しており、「北区を知る」「北区で楽しく過ごす」「北区にずっと住みたくなる」ための案内書となっている。

A4 版・全 130 頁・フルカラー
東京商工会議所北支部・2018/05/31 発行
書誌番号：3-0002911725



◆東京五輪音頭-2020-

東京でオリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年夏、世界からやって来た方々に「顔と顔」を合わせながら、楽しんで頂きたいと制作されたDVD「東京五輪音頭-2020-」。

歌ってくれるのは石川さゆりさん、加山雄三さん、竹原ピストルさん。 歌詞も振り付けも 2020 仕様です。 この夏、ご近所のお祭りでも流れるかもしれないので、ぜひ踊ってみてください。

DVD・20 分・歌詞カード 1 枚・踊り方 3 枚
東京 2020 組織委員会・2018 制作
書誌番号：3-0002921255

北区の部屋だより

2018年9月

第110号

刊行物登録番号　29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 9 月発行

北区こぼれ話 第110回

意外と知られていない 王子の名物　川魚

北区域で江戸庶民の行楽地というと、どうしても飛鳥山や王子権現・王子稲荷などが思い浮かびますが、実は荒川（隅田川）も多くの釣り客が集まる人気の行楽スポットでした。

そもそも荒川は、多摩川とともに御留川（おとめがわ）とされ、将軍の漁猟上覧（ぎょりょうじょうらん）（身分の高い人が御覧になること）や江戸城内で消費する魚類確保のため一般の漁猟活動が禁止されていました。しかし、この御留川の範囲が須崎村（すざきむら）（墨田区）牛御前高札場（うしのごぜんこうさつば）から石神井川との合流地点付近であったため、豊島村より上流の沿岸では漁猟を行うことができました。こうした制度によって、江戸の人々、なかでも釣りの愛好家たちは、頻繁に北区域を訪れることになるのです。

文化（ぶんか）年間（1804～18）に王子の地を訪れた十方庵敬順（じっぽうあんけいじゅん）は、神谷村での遊猟（ゆうりょう）について「装束榎（そくえのき）の際から蟹和村（かにわむら）（神谷村）へ凡（およ）そ 14～5 町（約 1.5～6km）。漁猟を愛する人はここに来て漁者（ぎょしゃ）を雇い、猟船（りょうせん）に乗って釣りを楽しんだ」と記しています。また、神谷村が釣り客の人気を集めたのは、単に江戸から近いからだけではありません。敬順は「荒川の魚は格別であり、中でも蟹和（神谷）の鯉は風味抜群である」と記し、神谷村辺りで釣れた鯉を絶賛しているのです。

王子の川魚は釣客だけではなく、この地を訪れる行楽客の目的にもなっていました。大和郡山藩（やまとこおりやまはん）の二代目藩主柳沢信鴻（やなぎさわのぶとき）が隠居後に記した日記（『宴遊日記（えんゆうにっき）』、『松鶴日記（しょうかくにっき）』）によれば、信鴻は王子権現や王子稲荷に参拝すると、必ずといっていいほど茶屋の店先で鯉や鰻、鯰、泥鰌（どじょう）などの川魚を買って持ち帰り、屋敷の池などに放っていたことが確認できます。自身が参詣に行けず、代わりの者が代拝（だいはい）したときも川魚を買って持ち帰らせていることを考えると、こうした魚の購入自体が王子周辺の地を訪れる一つの目的であったことがうかがえるのです。

高度成長期には、工場排水等によって汚染が甚だしかった荒川も、現在は、昔の姿を取り戻すための努力が重ねられています。いつの日にか、また、地元で獲れた川魚が北区の名物となる日が来るといいですね。

【地域資料専門員　保垣孝幸】

北区の部屋 今月の展示

テーマ：「忘れ去られた産業遺産　解き明かされたカラミ煉瓦の謎」
期　間：8 月 24 日（金）～9 月 26 日（水）
場　所：「北区の部屋」企画展示コーナー

平成 30 年 8 月 5 日（日）に北区立中央図書館 3 階ホールにて『忘れられた産業遺産　カラミ煉瓦の謎に迫る』と題して歴史講演会を開催いたしました。講師の領塚正浩（りょうづかまさひろ）氏（北区史を考える会）により、北区の路傍などで見かける「カラミ煉瓦」の製造、販売などについて解説がなされました。

領塚正浩講師

✽　講演会の内容は以下のとおりです。✽

北区豊島を中心に現在も街の各所に、植木鉢の台、消火器置場などいろいろな使用方法で残されているカラミ煉瓦ですが、組成や製造方法などは謎に包まれていました。明治 41 年、隅田川沿岸の現豊島 5 丁目付近にあった関東酸曹（かんとうさんそう）は、製銅工場を竣工させます。銅製錬の過程で鉱石から必要な金属を取除いたもの（スラグ）から、さらに銅など鉄以外の金属を取り除いた残りかす（カラミ）を箱形に固め、カラミ煉瓦を製造していました。明治 41 年から大正 9 年の 12 年間に 300 万個以上も生産されていたとのことです。大きさは 3 種類あり、一番大きなものは、長さ約 45cm×幅約 22cm×高さ約 16cm、重さは約 57kg もありました。カラミ煉瓦は「鐵煉瓦（てつれんが）」という商品名で、1 個 33 銭で販売されていました。当時、喫茶店のコーヒー 5 銭・映画館の入場料大人 30 銭でした。塀、土止め、敷煉瓦等に使用されていたようですが、価格についての感じ方は様々です。講師は北区だけでなく、西日本の犬島（いぬじま）製錬所（せいれんしょ）のカラミ煉瓦、生野銀山（いくのぎんざん）のカラミ石、別子銅山（べっしどうざん）のカラミ煉瓦の調査もされており、北区の関東酸曹との関係についても述べられました。これらの地域では、カラミ煉瓦で建造された施設の一部を美術館で公開したり、カラミ煉瓦（石）を模した菓子を作るなどして地域振興にもつなげているとのことでした。地元に残る産業遺産カラミ煉瓦の謎について、講師の詳細な研究結果の発表に、参加された皆様は、大変熱心に耳を傾け、活発に質問されていました。日頃から地域に目を向け、その歴史に興味を持ち、疑問に思ったことについて勉強されていることは、ご記入いただいた、アンケートからも伺えました。北区の産業遺産への皆様の関心は高く、大変高評価をいただきました。

Local Collections 北区の部屋

北区立図書館ホームページの中の「北区の部屋」というコーナーをご覧になったことがありますか？ここには…

- ✽　北区の部屋だより（フルカラーVer.）
- ✽　「北区」が登場する本のリスト
- ✽　「岩淵水門」「旧軍関係施設」「古地図・住宅地図」の資料リスト
- ✽　地域資料専門員出勤予定表

などが掲載されています。北区の部屋だよりは、第 1 号から見ることが出来ます。秋の夜長に「こぼれ話」全 110 話を読んでみてはいかがですか。その他、気になる資料を見つけたら、ぜひ「北区の部屋」にお越しください。過ごしやすいこれからの季節、本に出てくるところへ散歩に出かけたり、古地図を見て北区の歴史に思いをはせたりするのも楽しいのではないでしょうか。リストに掲載されていない希少な地図も、地域資料専門員にお尋ねいただければ、ご覧いただくことが出来ます。予定表で在室をご確認の上お越しください。